

# てしろもりの丘あおば

## 経営方針

安全で安心できる環境の提供と人権尊重の価値観を基本とした質の高いサービスを提供し、利用者一人ひとりが選択し決定した目標の実現に向けて支援を行います。

地域生活への移行が難しい障害児入所施設の児童や、様々な理由により地域生活が困難となった障がい者に対するセーフティネットの機能を担います。

小集団での支援を基本とし、個室空間と共有空間を備えた生活スペースを有効に活用して利用者へのサービスの充実を図るとともに、地域との関係構築を主軸に置いた施設運営を行っていきます。

## ■ てしろもりの丘あおば

[障害者支援施設（施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援事業）]

## ■ 相談支援事業所「らいふ」

[障害児相談支援、特定相談支援]

## 取り巻く環境

国の障害福祉計画においては、これまで継続して「施設入所者の地域生活への移行」が掲げられています。そのような中にありながらも、てしろもりの丘あおばには、障がいの特性等により現時点では地域移行が難しい方々が多く入所しており、また、心身状態や家庭環境の変化等、様々な理由により地域生活の維持が難しくなった障がい者や、児童入所施設から直接地域生活への移行が困難な児童の入所希望も多く、そのような方々の入所を引き続き受け入れることによるセーフティネット機能の役割が求められています。

相談支援事業所「らいふ」は、障がい児者が安心した地域生活が送れるよう、福祉ニーズに対応した相談支援が期待されています。

## 令和6年度【事業の重点項目】

### 1 人権尊重と虐待防止の意識の徹底

人権擁護の徹底は福祉サービス事業者に求められる重要な経営方針となります。

人権尊重と虐待防止の研修を継続して実施していきます。

会議で人権侵害自己チェックを活用するとともに、合理的配慮や意思決定支援について日常支援の振り返りと共有を行いながら人権意識の醸成を図ります。

また、視覚支援等を活用しながら利用者個々に応じた支援を行います。

### 2 安心安全なサービス提供と支援技術の向上

ユニット構造の生活環境において、転倒や他害等の利用者間のトラブルが発生した際に対症的な支援になる場合があるため、小規模ユニットにおける職員の見守りや共有、連携支援を充実させ、介護や余暇、活動場面における予防的視点に立った支援体制の構築を図ります。

また、障がい理解についての学習と利用者の特性把握に努め、効果的な支援方法の構築と標準化を進め、安心安全な生活環境を提供します。

通院、行事外出に伴う公用車等での送迎においては、安全運転の励行に併せ、利用者の乗降時における安全確保、人員確認等を徹底します。

なお、みたけの園から移転し、3年半が経過していることから、支援マニュアル等が移転後のユニット、職員体制等に合致したものとなっているか等、見直し、改定等を行います。

### **3 地域ニーズに応じた事業の展開**

地域の利用ニーズに対応しながらの機能提供の充実が求められます。

短期入所・日中一時支援の利用契約を進め、施設入所支援と合わせ利用率の維持・向上と経営の安定化を目指すとともに、地域におけるセーフティネット機能を担ってまいります。

相談支援事業所「らいふ」においては、ご本人やご家族がより安心して地域生活が送れるよう、関係機関との共有や連携の充実を図りながら支援対応します。

### **4 地域住民との信頼関係の構築**

地域福祉を推進していくうえでは、施設に対する地域住民の理解と協力が不可欠です。

おもちゃ図書館事業、多目的ホールの活用等について情報発信していきます。

また、地域行事への参加や交流行事等を企画し、相互理解を図っていきます。

### **5 労務管理の徹底と働きがいのある職場づくり**

福祉人材の確保、育成を図っていくうえで、働き方改革の推進が必須となります。

業務の見直しによる効率化と職員個々の業務の見える化及び連携強化を図り、時間外労働の削減を目指します。

5S活動を習慣化させ、労務環境を整えるとともに、チーム支援の中で職員が仕事にやりがいを感じられるよう、「にこりほっと活動」を展開するなど、風通しのよい職場づくりを行います。

### **6 災害対策の強化**

施設における防災設備の周知把握及びユニット構造に即した防災体制の構築を図ります。